

フランス語学科 全体履修説明

2020年4月

〈第一主専攻〉

として専攻語を
学び、

〈第二主専攻〉

としていずれか
の研究コースを
選んで専門研究
に取り組む 〈ダ
ブルメジャー制
度〉


外国語学部カ リキュラムの 基本

ダブル・メジャーをめざして：学科とコース

「第一主専攻」＝学科
(専攻外国語と語圏基礎科目)

「第二主専攻」＝研究コース
(言語／地域のエキスパートへ)

- － 英語学科
- － ドイツ語学科
- － フランス語学科
- － イスパニア語学科
- － ロシア語学科
- － ポルトガル語学科



2年次の
秋学期に
選択

- － 北米研究
- － ヨーロッパ研究
- － ラテンアメリカ研究
- － ロシア・ユーラシア研究
- － 言語研究
- － アジア研究
- － 中東・アフリカ研究
- － 国際政治論研究
- － 市民社会・国際協力論研究

重要な用語（ハンドブック 3頁）

○**単位**：大学では授業科目の履修を通じて単位を修得し、卒業要件を満たすことで学位を得る

一般に講義科目は 1 科目 2単位、語学科目は 1科目 1単位となる

○**学期**：上智大学はセメスター制とクォーター制を併用している

春学期（第1・第2 クォーター）：4月～9月


秋学期（第3・第4クォーター）：9月～3月

○**成績評価**：上智大学では原則として ABCDFの 5 段階で評価が出される□A(100～90点) B(89～80点) C(79～70点) D(69～60点)は合格、F(59点以下)は不合格

重要な用語 (ハンドブック 3頁)

○ **GPA (Grade Point Average)**: A(4点) B(3点) C(2点) D(1点) F(0点) として以下の計算式で算出される

$$\frac{4 \times A \text{の修得単位数} + 3 \times B \text{の修得単位数} + 2 \times C \text{の修得単位数} + 1 \times D \text{の修得単位数}}{\text{履修登録科目の総単位数}}$$



GPAは交換留学のための選抜試験での
評価対象等になる

○ **Loyola (ロヨラ)**: 授業・留学・学生生活などに関連する情報の告知、履修登録、時間割・シラバス掲示、学生の呼び出しなどが行われる上智大学の学事システムの名称で、各学生に提供される ID (学生番号) とパスワードを使って学内外からアクセスできる

【単位】補足

○フランス語、英語など「語学科目」

1科目(1回(コマ)100分14回=1学期(セメスター))で**1単位**

○「フランス語圏研究A」「フランス近現代史研究」など「講義科目」:1科目**2単位**

(2) 履修についての概観 (ハンドブック3頁)

(2) 履修についての概観

| ①全学共通科目 | | | ②語学科目 | | ③学科科目 | | | | |
|----------|----------|------|-------|-----------------|--------------|-------------|---------------------------------------|-----------|--|
| ウェルネスと身体 | キリスト教人間学 | 選択科目 | 言語を選択 | 英語学科学生は英語以外の一つの | 英語学科以外の学生は英語 | 第一主専攻科目 | 第二主専攻または副専攻科目 (研究コースを一つ選んで専門研究を行う) | その他 | |
| | | | | | | 専攻語習得のための科目 | 専攻語が使用されている地域に関する基礎知識を学ぶ科目 | 卒業論文／卒業研究 | |
| | | | | | | | | 演習科目 | |
| | | | | | | | | コア科目 | |
| 導入科目 | | | | | | | | | |

卒業までに124単位必須

卒業要件：上記①～③のカテゴリーの科目を、それぞれ指定されたとおりに 124 単位 修得

①全学共通科目 22 単位 (英) / 26 単位 (独仏西露葡) を修得しなければならない

▷ウェルネスと身体 (必修)：1 科目 2 単位

▷キリスト教人間学 (選択必修)：2 科目 4 単位

▷選択科目：16 単位 (英語学科) / 20 単位 (独仏西露葡)

多様な選択肢の中から自由に履修してよいが、以下の2点には注意

・高学年向け教養科目：3 年次以降に 2 単位以上履修する必要がある

・語学科目：8 単位まで全学共通科目の選択科目として充当できる

★3・4 年次は学科科目を多数履修する必要があるため、「高学年次に履修し終えておくことを勧める

大学・外国語学部・フランス語学科が指定する条件に合わせて履修することで卒業できる

②語学科目 8 単位 (英) / 4 単位 (独仏西露葡) を修得しなければならない

▷英語学科学生は英語以外の指定された言語を一つ選び 8 単位修得

▷独仏西露葡の学科生は英語を 4 単位修得

③学科科目 94 単位：第一主専攻科目、第二主専攻/副専攻科目、その他 からなる

第一主専攻科目：専攻語の習得に努め、専攻語が使用される地域についての知見を得よう

→各学科が開講する必修・選択科目を、指定するとおりに修得しなければならない

▷「話す/聴く/書く/読む」4 技能について専攻語の実践的な運用能力を身につける

・英語学科：English Skills や English Composition (1~2 年次)、「英語・英語圏研究科目」など

・独仏西露葡学科：1~2 年次の「基礎～語 I」「同 II」、3~4 年次の「総合～語」など

▷専攻語が使用される地域 (～語圏) に関する基礎知識とともに、専門研究を進めるにあたって必要なリテラシーとスキルを身につける

・「～語圏基礎科目」や「英語・英語圏基礎科目」(英語学科のみ) など

フランス語学科(第一主専攻科目)カリキュラム

★【基礎フランス語Ⅰ-1+同Ⅰ-2：12 単位】（必修）＋【基礎フランス語Ⅱ-1+同Ⅱ-2：12 単位】（必修）

＋【総合フランス語Ⅲ／Ⅳ：8 単位】（選択）＋【フランス語圏基礎科目 A～D：8 単位】（必修）

→ これらの科目を修得しなければならない

★基礎フランス語の評価について

○基礎フランス語Ⅰ及びⅡは学期ごとの授業全体に対して一つの評価及び 6 単位の単位付与が行われる

○基礎フランス語の再履修：「Ⅰ-1」「Ⅰ-2」「Ⅱ-1」「Ⅱ-2」の順に修得しなければならず、それぞれ不合格（評価 F）となった場合は再履修となる。

○第一主専攻科目**40単位**：

「基礎フランス語Ⅰ」12単位＋「基礎フランス語Ⅱ」12単位＋「総合フランス語」8単位

＋「フランス語圏研究」(A～D)8単位＝40単位

第二主専攻／副専攻科目

(ハンドブック4頁)

第二主専攻／副専攻科目：9つの研究コースから一つを選んで専門研究を行おう

→各研究コースの科目群は、以下の4種類に分かれている

▷導入科目 (1～4年次)：各研究コースの学問領域に関わる基礎知識や方法論を学ぶ

*このほかに研究コース共通の「コース共通導入科目」もある

▷コア科目 (2～4年次)：各研究コースに関わるより専門性の高い知識や方法論を学ぶ

▷演習科目 (3・4年次)：専門領域に関する考察を深めたり、独自にテーマを設け研究を行う

▷卒業論文・卒業研究 (4年次)：研究成果を論文等のかたちで結実させる

→研究コースを「第二主専攻」または「副専攻」として選択し、選択した研究コースで開講されている科目を以下のように履修しなければならない

第二主専攻

- ▷導入科目 3科目 6単位
- ▷コア科目 10科目 20単位
- ▷演習科目 2(4*)科目 4(8*)単位
- ▷卒業論文・卒業研究 2科目 6単位
- 合計 36(40*)単位

副専攻

- ▷導入科目 3科目 6単位
- ▷コア科目 5科目 10単位
- 合計 16単位

★導入科目は選択した研究コースから最低2科目を履修すれば、他の研究コース開講の導入科目や学部開講のコース共通導入科目でも充当できる

第二主専攻／副専攻の違いは？

- 研究コースの選択と同時にどちらかを選択します
- 両者の違いは「**学びの深さ**」の違い

| | 第二主専攻 | | 副専攻 |
|-------|---------|---------|------|
| | 外国語5コース | 総グロ4コース | |
| 導入科目 | 6単位 | 6単位 | 6単位 |
| コア科目 | 20単位 | 20単位 | 10単位 |
| 演習科目 | 4単位 | 4単位 | — |
| 卒論・卒研 | 必修 | 必修 | — |

- 外国語学部としては第二主専攻の選択を推奨します
 - 能動的な学びが知識だけにとどまらない「知る力」を養うからです
 - 卒業に必要な総単位数は、どちらを選択しても**124単位**です

※副専攻（ゼミも卒論も必要ない、コアも半分）の位置づけ：教職（英語）などの場合

英語も重視

(学部の教育理念の一つ「3言語・3視座」+多言語教育)

○**全学共通科目の選択科目に8単位(つまり8科目)**まで「英語選択科目」を充当できる

○**学科科目その他に8単位(つまり8科目)**まで「英語選択科目」を充当できる

※同様のカテゴリーに同じ単位数仏英語以外の言語の単位を充当できる

※AC1の履修完了までは「英語選択科目」は履修できない(仏英以外は可能)

専攻語としてフランス語を学びつつ、「英語はもう十分」という人は、2外として、たとえばイタリア語を初級中級上級まで12単位分習得し、さらに、たとえばコリア語を4単位分学び、これらを卒業単位とすることができる。

注意してほしいポイント

特に1, 2年の間はとにかくフランス語(第一主専攻)の勉強に集中

学則40条

→履修要覧[ガイド・資料編]p.40

研究コースでの専門研究(ハンドブック5頁)

北米研究コース：アメリカ合衆国やカナダなどを中心とする地域研究
ヨーロッパ研究コース：西欧からロシアまで広がる諸地域を対象とする研究
ラテンアメリカ研究コース：ラテンアメリカ諸国を対象とする地域研究
ロシア・ユーラシア研究コース：主として旧ソ連の諸地域を対象とする研究
言語研究コース：理論言語学、応用言語学、言語聴覚障害学などを対象とした研究

アジア研究コース：アジア太平洋地域、東南アジア、南アジアを中心とする諸地域を扱う研究
中東・アフリカ研究コース：中東、北アフリカ、サブサハラアフリカを対象とする地域研究
国際政治論研究コース：国際関係論、国際経済、国際政治史などを対象とした研究
市民社会・国際協力論研究コース：開発援助、貧困、社会運動や国際教育などを対象にした研究



「ヨ」「言」が多いだろうが、他の研究コースも選択できる
総グロ4コースはゼミ履修に制限あり。ただし、外国語学部の教員のゼミが開講している場合も多々あり、これらのゼミでは選抜はない。例：中ア・岩崎
研究コースの選択は、結局は「どの先生のゼミで卒論を書くのか」が重要。1年次～2年次に導入科目、コア科目を履修しながら、自分の問題関心がどこにあるのか、それを元にした研究はどの先生のもとでなら可能なかを考える。

研究コースの選択を意識して 履修計画を！ (ハンドブック5頁)

一つに限らず、
いろいろなコース
の科目を履修し
てもよい

1年次

複数の研究コースの<導入科目>と<コース共通導入科目>を履修

【基礎】: 専門領域の基礎知識・方法論を習得する

【模索】: 問題関心を探究するのに最適な研究コースを探す

2年次

選択する研究コースを絞りつつ、各研究コースの<コア科目>を履修

【発展】: 関心ある分野のより専門性の高い科目を履修する

【選択】: 2年次秋学期に自分の研究コースを決定

3・4年次

<演習科目>を履修し始める

【深化】: 問題関心の中からより具体的な研究テーマが徐々に見えてくる

: 広く知識を習得しつつ、研究テーマに関する考察を深めていく

【研究】: 演習科目の担当教員の指導を受け、研究成果を<卒業論文・卒業研究>としてまとめる

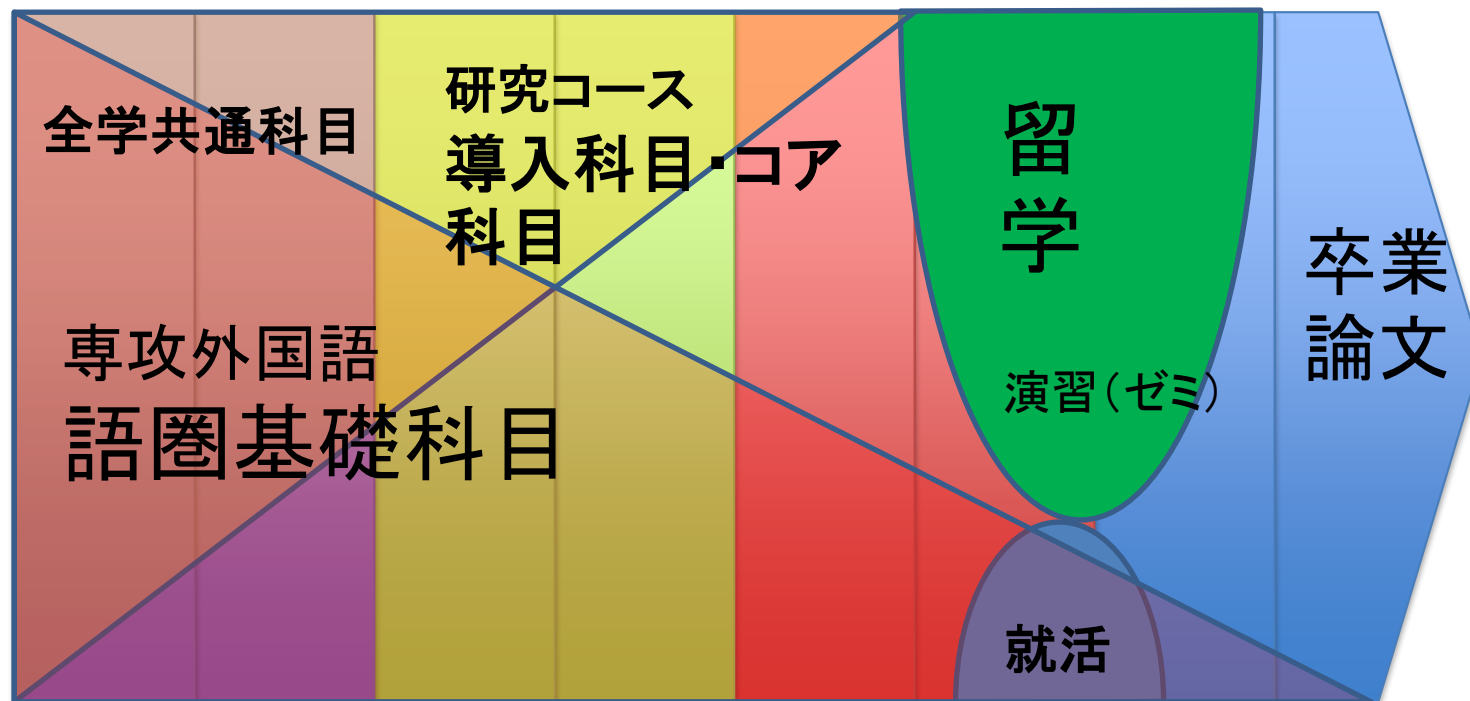
外国語学部の8学期(4年間)

1年
春学期 秋学期

2年

3年

4年



注意！

- 『2020年度履修要覧〔ガイド・資料編〕・〔学部科目編〕』を熟読
- ★〔ガイド・資料編〕 特にⅠ.ガイドページとⅡ.教務
- ★〔学部科目編〕フランス語学科のページ「**標準配当表**」で卒業要件を確認、履修計画を立てる
- ★〔学部科目編〕「外国語学部について」、各研究コースのページも熟読！
- →不明な点は**学事センター**に質問する

注意！

- 一年生の間はたくさん科目をとりすぎないように注意！（フランス語の予習・復習だけで結構大変）
- ロヨラ掲示をみること！
- ロヨラ呼び出しに応じること！
- フランス語学科メーリングリストを受信できるように！

フランス語 学科 第一専攻 科目 10ページ

【基礎フランス語科目】1～2年次に基礎力を身につける（1回90分授業×6回/週）

1年次：基礎フランス語 I-1（春6単位）＋基礎フランス語 I-2（秋6単位）

- 週6回のうち4回は「コミュニケーション」、2回は「文法」の授業
 - ▶「コミュニケーション」：聴く、話すを中心に総合的なアプローチで行われる授業
 - ▶「文法」：基礎的な文法力を身につける授業。
- 「コミュニケーション」は3グループ（ABC）、「文法」は2グループ（XY）に分かれる
- ネイティブ教員と日本人教員がチームを作ってそれぞれ授業を担当
- 使用教科書：Berthet et al., *Alter Ego +A1*, Hachette, 2012 / 山崎吉朗ほか『とことんフランス語—フランス語文法のレシピ』朝日出版社、2012年。

2年次：基礎フランス語 II-1（春6単位）＋基礎フランス語 II-2（秋6単位）

- 週6回のうち3回は「コミュニケーション」、3回は「専門研究へのフランス語」の授業
 - ▶コミュニケーション：聴く、話す、読む、書くの4技能のさらなる向上を目指す授業
 - ▶専門研究へのフランス語：社会学、宗教学、言語学、哲学、経済学といった専門分野に関わる教材を使いながら、基礎力の強化をはかる授業
- 「コミュニケーション」は3グループ（ABC）、「専門研究へのフランス語」は2グループ（XY）に分かれる
- ネイティブ教員と日本人教員がチームを作ってそれぞれ授業を担当
- 使用教科書：Berthet et al., *Alter Ego +A1*, Hachette, 2012, *Grammaire* / Barthélémy et al., *Zénith 3. Méthode de français B1*, CLE International, 2013 / M.-P. Caqueneau et al., *Les 500 exercices de grammaire B1*, Hachette, 2005.

【総合フランス語科目】3～4年次に実践的な運用能力を身につける（1回90分授業）

3年次：総合フランス語 III（春3単位＋秋3単位）：4技能を実践的なレベルに伸ばす

- ▶表現演習 III：現代フランスの政治や社会に関する資料を使って、「話す」「書く」力を伸ばす
- ▶聴解演習 III：芸術、文化、文学等に関するニュースや批評などを資料に「聴く」力を伸ばす
- ▶講読演習 III：政治、歴史、文化等に関する資料を使って、「読む」力を伸ばす

4年次：総合フランス語 IV（春1単位＋秋1単位）

- ▶総合演習 IV：多様なテキストや映像を用いながら、それぞれのテーマについてのレポート、プレゼン、ディスカッションを行うことを通して、フランスの現代社会に関する理解を深めるとともに、高度なフランス語の運用能力を獲得する
- ▶特別演習 S：留学帰国者など上級者向けの授業。「総合演習 IV」の代わりに履修することもできる

【フランス語圏基礎科目】原則として1～2年次に修得すること（各科目2単位ずつ合計8単位）

- ▷フランス語圏研究 A（1年次春学期）：フランス語圏の歴史と文化に関わる教養を獲得する
- ▷フランス語圏研究 B（1年次秋学期）：フランス語圏の政治と宗教に関わる諸問題を考察する
- ▷フランス語圏研究 C（2年次春学期）：フランス語圏の社会と経済に関わる諸問題を考察する
- ▷フランス語圏研究 D（2年次秋学期）：学科教員の専門研究を紹介。各分野のエッセンスに触れる

外国語学部の理念 「語学と専門の両輪」

上智大学外国語学部：学部の中に小さな文学部、経済学部、法学部などがある構図

- ・通常の専門系学部：専門に関することは1年次からやるが、語学レベルが低いため本格的な研究はできない
- ・専攻語(フランス語)と英語(+第三外国語)を習得
- ・習得した複数の外国語を使って、専門研究

様々な外国語を学べるのが上智の特徴。ただし、あまり手を広げすぎて、本業のフランス語をおろそかにしないように！